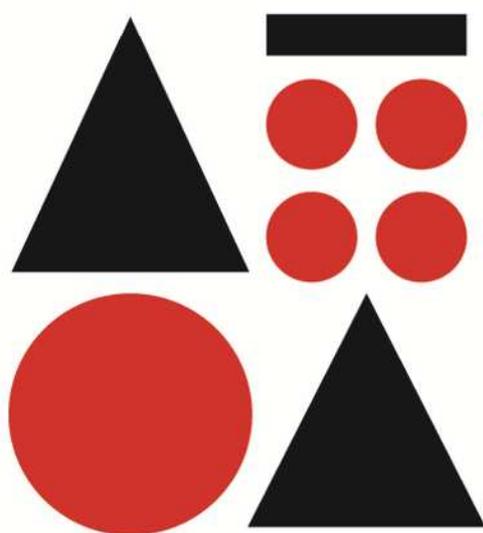


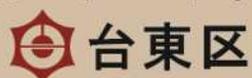
# たいとう 文化発信プログラム

2020年、そして輝く未来へ



たいとう文化発信  
Culture of Taito City

平成29(2017)年10月







## たいとう文化発信プログラム

2020年、そして輝く未来へ

オリンピック憲章に「スポーツを文化、教育と融合させる」と謳われているとおり、オリンピック・パラリンピック競技大会は、スポーツはもとより、文化の祭典でもあります。

1964年に開催された東京大会は、戦後復興から国際社会へ復帰する象徴的なイベントとなりました。高度経済成長を経て成熟社会を迎え、再び開催される東京2020大会は、文化の祭典として世界中から注目を集めることとなります。

リオデジャネイロ大会終了後から、国や東京都等による文化プログラムが開始されています。2020年までの4年間で、様々なプログラムが実施され、日本の文化の魅力を世界へ発信する絶好の機会であります。

私は、本区の文化・芸術の魅力を国内外へアピールし、2020年、そしてその先まで、台東区が国際文化観光都市として輝き続けることを目指し、「たいとう文化発信プログラム」を策定いたしました。

本プログラムでは、区による文化事業のみならず、区民やNPO等の団体、民間事業者による取り組みも対象に広げて、オール台東による一体感のある展開に繋げていきたいと考えております。

結びに、本プログラムの策定にあたりまして、議論を重ねていただきました有識者や関係団体の皆様に、心から御礼申し上げます。

平成29(2017)年10月

台東区長 服部 征夫



## たいとう文化発信プログラムロゴマークについて

「台東」という文字を変形させて作ったマークで、「多様な文化を和える(あえる)」というテーマを表現しています。

「和える」という言葉には、異なる素材同士が互いに形を残しながらも混ざり合い、一つにまとまって美しいものを形づくるという意味があります。

静と動、和の文化と洋の文化、古き良き伝統と最新のトレンド。様々な背景を持った文化が混ざり合いながら、互いに魅力を引き出しあって共存し、ひとつの形となってあらわれた台東区という文化圏を、丸・三角・四角の異なる3つの形によるシンボルマークで表現しています。



たいとう文化発信  
Culture of Taito City

デザイン まきの ゆい 榎野 結 (東京藝術大学大学院美術研究科デザイン専攻視覚伝達研究室所属)

## 目次

「たいとう文化発信プログラム」概要.....	1
第1章 「たいとう文化発信プログラム」とは.....	2
1. 2020年を見据えた国・東京都における動向.....	2
2. 「たいとう文化発信プログラム」の目的.....	4
第2章 台東区の文化・芸術に関するポテンシャル.....	6
1. 全国的にも有数の文化資源の集積.....	6
2. 文化・芸術にかかわる多様な人材との連携.....	10
3. 観光資源としての魅力.....	12
4. 文化の力を活かしたものづくり産業との連携.....	15
第3章 事業のPRに関する基本的な考え方.....	17
1. プログラムにて発信する事業.....	17
2. 多様な主体による事業の一体的な情報発信.....	17
3. 5つの視点.....	18
第4章 「たいとう文化発信プログラム」の展開.....	20
1. 専用ウェブサイト等による事業PR.....	20
2. 独自のロゴマークによる統一感のあるPR展開.....	21
3. 組織委員会や国などの文化プログラム認証制度の積極利用.....	21
参考資料.....	23
「たいとう文化発信プログラム」の対象事業一覧.....	24
組織委員会・国による文化プログラムの取り組み.....	31
1. 東京2020文化オリンピック(組織委員会).....	31
2. beyond2020プログラム(内閣官房).....	32
策定組織.....	34
1. (仮称)台東区文化プログラム策定委員会 名簿.....	34
2. (仮称)台東区文化プログラム策定委員会 設置要綱.....	35
3. (仮称)台東区文化プログラム策定委員会での検討経緯.....	36



# 「たいとう文化発信プログラム」 概要

2020年に向けて活用 / 協調できる国・東京都の動向

日本・東京の文化の世界に向けた発信

文化・芸術の力の他分野への活用

東京2020大会の開催は、文化を発信する絶好の機会

目的

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機として、区内の文化・芸術にかかわる様々な取り組みをPRし、「歴史と文化のまち」台東区の文化の魅力を国内外へ発信する

## 国内外への波及

- 多くの人々が区の文化を知り、区を訪れ、区の文化に触れる機会が創出される

## 台東区への波及

- 区民が区の文化の魅力を再認識し、まちへの誇りと愛着が育まれる
- 文化を守り、育み、発展させていく文化の担い手が広がる
- 文化の魅力を高めるオール台東での取り組みが2020年以降も発展的に続く

## 5つの視点に基づく事業の発信

- 視点1 文化資源の継承
- 視点2 文化の魅力の発信
- 視点3 あらゆる人々の参加
- 視点4 次世代育成
- 視点5 新たな文化の創造

## 「たいとう文化発信プログラム」の展開

1. 専用ウェブサイト等による事業PR
2. 独自のロゴマークによる統一感のあるPR展開
3. 組織委員会や国などの文化プログラム認証制度の積極利用

活かすべき多様な文化・芸術の魅力の集積

## 台東区の文化・芸術に関するポテンシャル

全国的にも有数の文化資源の集積

文化・芸術にかかわる多様な人材との連携

観光資源としての魅力

文化の力を活かしたものづくり産業との連携

# 第1章 「たいとう文化発信プログラム」とは

## 1. 2020年を見据えた国・東京都における動向

2020年に向けて活用 / 協調できる国・東京都の動向

- 日本・東京の文化の世界に向けた発信
- 文化・芸術の力の他分野への活用

### 東京2020大会の開催は、文化を発信する絶好の機会

#### 文化芸術立国中期プラン — 文部科学省・文化庁

～2020年に向けた文化政策のロードマップ～

- 文化芸術立国中期プランは、平成26(2014)年3月に、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会(以下、東京2020大会)の開催に向けた文化政策のあり方に対する、文部科学大臣による私案としてまとめられました。
- 東京2020大会に向け、「日本各地の文化力」の強みを活かした文化プログラムの実施を通して、世界中の人々が相互に対話や交流を深め、新たな文化が創造され、発信されることが、将来の日本の姿として提案されています。
- 具体的には、人材の育成、文化財等の資源を活用した地域活性化、そして日本文化を世界に向けて発信することで日本が「世界の文化交流のハブ」になることが目指されています。

#### 文化芸術の振興に関する基本的な方針(第4次) — 文部科学省・文化庁

～「文化芸術立国」の姿を創出していくための国家戦略～

- 文化芸術の振興に関する基本的な方針(第4次)(以下、「第4次基本方針」)では、平成27(2015)年5月に策定され、東京2020大会が開催される年までの国の文化芸術振興に関する方向性が示されました。
- 同方針では、東京2020大会は日本の「文化や魅力を世界に示すとともに、文化芸術を通じて世界に大きく貢献するまたとない機会」という認識が示され、基本理念のひとつとして、日本の文化的魅力の「世界への発信」が掲げられています。
- 文化芸術立国中期プランでは、文化・芸術を活用したまちづくりの推進や東日本大震災からの復興支援が示されているほか、第4次基本方針では、文化・芸術は「創造的な経済活動の源泉でもあり、持続的な経済発展や国際協力の円滑化の基盤」となると捉えられています。

我が国が目指す「文化芸術立国」の姿  
あらゆる人々が鑑賞や創作に参加できる機会がある  
東京2020大会を契機とする文化プログラムが全国展開されている  
被災地の復興の姿をはじめ、全国津々浦々から地域の文化芸術の魅力を発信している  
文化芸術関係の新たな雇用や産業が現在よりも大幅に創出されている

## 東京文化ビジョン — 東京都

～東京都の文化的魅力を高め、国際的なプレゼンスを高める戦略～

- 東京文化ビジョンは、平成27(2015)年3月に策定され、「文化から東京の未来を切り拓く」という思いの下、東京都の芸術文化振興における基本指針を示すとともに、東京2020大会に向けた文化プログラムの先導的役割を持ち、国際的に発信する東京の文化政策の世界戦略としての性格があります。
- 同ビジョンでは、「伝統と現代、東洋と西洋が交錯する」東京には、「独自性と多様性が秘められている」と捉え、東京の芸術文化の価値を東京のブランドとして国内外に発信していくことが第一の理念として示されています。
- また、芸術文化を東京のさらなる成長の柱として位置づけ、生活の質の豊かさの向上とともに、経済の活性化を図り、活力に満ちた世界のどこにもない成熟した文化都市を目指していくとされています。

## 文化プログラムの実施に向けた文化庁の基本構想 — 文化庁

～史上最大規模の文化プログラムに向けた構想～

- 文化庁は、平成27(2015)年7月に文化プログラムの実施に向けた基本構想をまとめ、東京2020大会を契機とする「史上最大規模の文化プログラム」を実現するための文化庁の取り組みの方向性を示しました。
- 基本方針では、東京2020大会を「我が国の文化の魅力を世界に示すとともに、文化芸術を通じて世界に大きく貢献するまたとない機会であり、文化芸術の振興にとって大きなチャンス」と捉え、方針のひとつとして文化芸術の国内外への発信を掲げています。

## 台東区が活かし、かつ協調できる国・東京都の政策

～日本・東京の文化の世界発信 / 文化・芸術の力の他分野への活用～

- 国や東京都では、東京2020大会をきっかけとして、日本、そして東京の文化を国内外に発信することで、魅力を周知し、日本の国際的なプレゼンスを高めていこうとしています。
- 同時に、文化・芸術の力を活用することにより、観光や産業などの経済面、また福祉や教育などの生活にかかわる分野をよりよいものにする方向性も示しています。
- このように東京2020大会は、文化を発信する好機であり、また文化・芸術の力を他分野へ波及させていくことを後押しするものでもあります。
- 上野や浅草という日本を代表する文化拠点を擁し、歴史と文化が薫る台東区にとって、東京2020大会は、国・東京都の文化振興の高まりに合わせ、またその高まりを加速させるようにして区の文化の魅力をアピールする機会として活かすべきものと言えます。

## 2. 「たいとう文化発信プログラム」の目的

### 目的

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機として、区内の文化・芸術にかかわる様々な取り組みをPRし、「歴史と文化のまち」台東区の文化の魅力を国内外へ発信する

#### 国内外への波及

- 多くの人々が区の文化を知り、区を訪れ、区の文化に触れる機会が創出される

#### 台東区への波及

- 区民が区の文化の魅力を再認識し、まちへの誇りと愛着が育まれる
- 文化を守り、育み、発展させていく文化の担い手が広がる
- 文化の魅力を高めるオール台東での取り組みが2020年以降も発展的に続く

### 「たいとう文化発信プログラム」とは

- 東京2020大会の開催は、日本の文化・芸術の魅力を世界に向けてアピールする絶好の機会です。台東区においても、魅力的な文化資源が多く集積し、文化を守り育み発展させている区の魅力をPRするチャンスとなります。
- 「たいとう文化発信プログラム」は、東京2020大会に向けた文化振興の高まりに合わせて、「歴史と文化のまち」台東区の文化・芸術にかかわる様々な取り組みを国内外へ積極的に発信していくために策定するものです。

### 国内外に向けた文化の魅力を発信 / 区民のまちへの誇りと愛着の醸成

- 区の文化の魅力を発信することで、国内外から多くの人々を惹きつけ、区内に集積する多様な歴史や文化に触れる機会を創出します。
- 区の文化の魅力への注目が集まることを通じて、区民が自分の住むまちの文化の魅力を再認識し、区民のまちへの誇りと愛着が育まれることを目指します。

### 文化の担い手の拡充 / オール台東による一体感のある取り組み

- 区民が、区の文化を享受し、参加する機会が増えることで、文化を守り、育み、発展させていく文化の担い手が広がることを目指します。
- 台東区や公益財団法人台東区芸術文化財団(以下、区芸術文化財団)のみならず、周辺自治体や国、東京都、さらには区民やNPO、民間事業者も含め、多様な事業主体者とともに本プログラムを展開することを目指します。
- 事業主体者、表現者、鑑賞者等を問わず、それぞれが様々なかたちで文化に参画することで、オール台東による一体感のある取り組みとして区の文化の魅力を高めていきます。

## 2020年に向けた文化プログラム

- オリンピック・パラリンピック競技大会は、スポーツの祭典であるとともに、文化の祭典と謳われています。オリンピック憲章において、開催都市および国による文化プログラムの実施が求められています。
- 平成24(2012)年のロンドン大会では、開催までの4年間、各地において約11万7千件におよぶ事業・イベントが実施され、過去最大の文化プログラムと言われています。
- 日本においてもリオデジャネイロ大会が終了した平成28(2016)年9月から文化プログラムを実施する「カルチュラル・オリンピアド」が始まっており、国や東京都の計画・方針等において史上最高の文化プログラムの実施が目指されています。
- 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会(以下、組織委員会)では、文化プログラムの認証制度「東京2020文化オリンピアド」が設けられているほか、国においてはより幅広い主体が活用できる「beyond2020プログラム」という認証制度もつくられています。
- 東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団及び公益財団法人東京都交響楽団では、2020年に向け、平成28(2016)年から4年間の事業を「東京文化プログラム」として展開しています。また、アーツカウンシル東京による助成事業「東京文化プログラム助成」において、東京2020大会の開催気運を高め、東京の文化プログラムを多くの人々に知ってもらう活動を支援しています。



東京2020文化オリンピアド  
公認プログラム ロゴ



東京2020文化オリンピアド  
応援プログラム ロゴ



beyond2020プログラム ロゴ

## 第2章 台東区の文化・芸術に関するポテンシャル

### 1. 全国的にも有数の文化資源の集積

- 台東区には、「多くの文化施設や学術・教育機関が集積し、わが国有数の文化芸術の創造と情報発信の拠点」である上野、「落語、漫才、演劇などの芸能に関する施設が集まり、わが国における大衆文化創造の重要な一翼」を担う浅草など、様々な特徴を持ったエリアが集積しています。
- 上野のはじまりは、江戸時代の寛永寺創建までさかのぼります。その後、明治初期には近代的な公園が整備され、殖産興業の博覧会が開かれるようになりました。その会場跡に美術館、博物館、動物園、美術学校、音楽学校などが設立され、文化・芸術の拠点の様相を呈すようになり、現在に至ります。
- また、上野公園に隣接する谷中地域には、寛永寺創建に伴って形成された寺町の風情が残り、「寛永寺・上野公園、谷中の街並み」地域は、次世代に継承すべき美しい歴史的風土を形成している地域として、「美しい日本の歴史的風土100選」に選ばれています。
- 浅草は、古くから浅草寺の参拝客でにぎわっており、江戸時代には多くの見世物小屋や芝居小屋が軒を並べ、江戸随一の庶民の盛り場となりました。明治以降も演芸や映画などの興行を楽しむまちとして栄え、現在の大衆文化のまちへとつながります。
- それらエリアを中心として多様な文化資源が集積しており、近現代の文化・芸術を体験する機会と江戸から続く大衆文化や下町情緒を体験できる機会が共存しています。

#### 台東区の文化・芸術に関するポテンシャル

- このように、台東区は日本を代表する文化資源が集積するまちであり、それらを核とした文化による観光振興に力を入れてきた自治体でもあります。また、観光客のみならず、文化・芸術にかかわる多様な人材が集うまちでもあります。
- さらに、台東区における文化振興は、文化施設や区内各所で行われる文化事業に加えて、長い歴史をもつものづくり産業との連携も行っており、国や東京都が示す文化・芸術の力の活用にも長く取り組んできています。
- 区の文化の魅力国内外にPRする際には、このような多様な文化・芸術の魅力の集積を活かすことが重要です。

#### 台東区の文化・芸術に関するポテンシャル

1. 全国的にも有数の文化資源の集積
2. 文化・芸術にかかわる多様な人材との連携
3. 観光資源としての魅力
4. 文化の力を活かしたものづくり産業との連携

活かすべき多様な文化・芸術の魅力の集積

## 台東区文化ガイドブック「文化探訪」

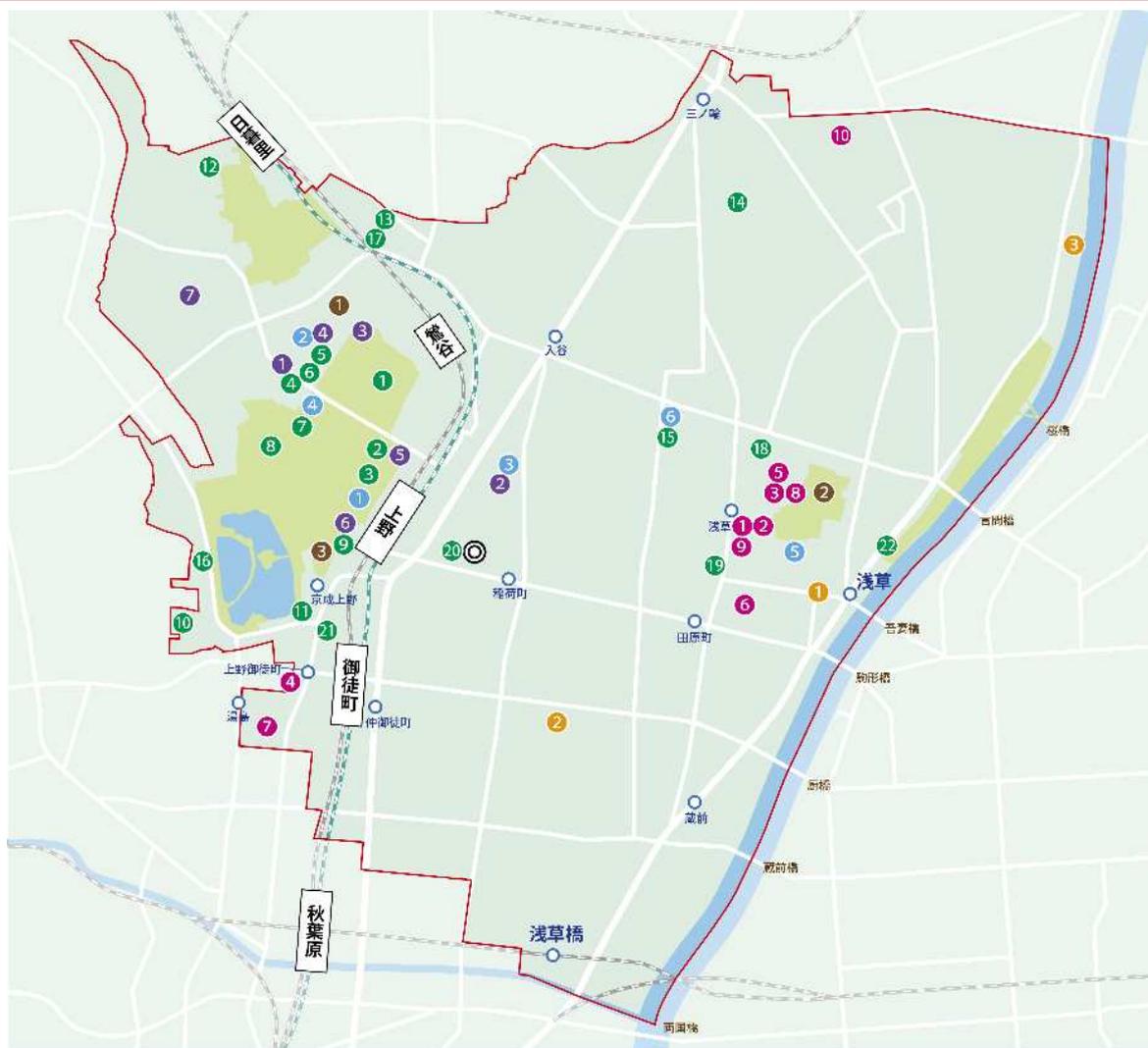
- 台東区文化ガイドブック「文化探訪」は、区内の文化資源の魅力をも、美しい写真や動画とともに発信しているウェブサイトです。
- 区内の文化施設での展覧会やイベントを紹介するほか、「歴史」「文化」「風物」「技」などの多様な切り口から文化資源を取材し、読み応えのある記事を発信しています。
- 英・中（簡・繁）・韓の多言語に対応しており、国内にかぎらず、国外に向けた情報発信にも取り組んでいます。
- 組織委員会による東京2020公認文化オリンピックの認証を受けています。

台東区文化ガイドブック「文化探訪」 <http://www.taito-culture.jp/>



台東区文化ガイドブック「文化探訪」

## 区内文化資源マップ



### 美術館・博物館・ギャラリー

- 1 東京国立博物館
- 2 国立科学博物館
- 3 国立西洋美術館
- 4 東京芸術大学大学美術館
- 5 国立国会図書館国際子ども図書館
- 6 東京国立博物館黒田記念館
- 7 東京都美術館
- 8 東京都恩賜上野動物園
- 9 上野の森美術館
- 10 都立旧岩崎邸庭園
- 11 台東区立下町民俗資料館
- 12 台東区立朝倉彫塑館
- 13 台東区立書道博物館
- 14 台東区立一善記念館
- 15 池袋正太郎記念文庫

### 音楽ホール・劇場

- 16 順山大観記念館
- 17 子規堂
- 18 江戸下町伝流工芸館
- 19 太鼓館
- 20 台東アートギャラリー
- 21 上野中央通り地下歩道内展示ブース
- 22 勝日公園リバーサイドギャラリー
- 1 東京文化会館
- 2 東京藝術大学楽奏堂
- 3 上野学園 石根メモリアルホール
- 4 旧東京音楽学校奏楽堂
- 5 浅草公会堂
- 6 台東区生涯学習センター・ミレニアムホール

### 芸能文化関係

- 1 浅草演芸ホール
- 2 東洋館
- 3 木馬亭
- 4 お江戸上野広小路亭
- 5 浅草花やしき
- 6 日本漫口協会大広間（一社）日本漫曲協会
- 7 馬門亭（一社）落語協会
- 8 浅草木馬籠大衆劇場
- 9 浅草六区ゆめまち劇場
- 10 台東区立たなか舞台芸術スタジオ

### 名所・旧跡

- 1 東叡山 寛永寺
- 2 命命山 浅草寺
- 3 清水観音堂

### 大学・学術・研究機関など

- 1 東京藝術大学
- 2 学校法人上野学園
- 3 東京文化財研究所
- 4 国土交通省建築研究所総合建築研究センター
- 5 日本学上院
- 6 日本藝術院
- 7 日本美術院

### 観光関連・その他

- 1 浅草文化観光センター
- 2 台東デザイナーズビレッジ
- 3 浅草ものづくり工房

区立文化・産業・観光関連施設、「上野の山文化ゾーン連絡協議会」及び「したまち台東芸能文化連絡会」加盟文化施設、台東区文化ガイドブック「文化探訪」掲載の文化施設を掲載しています。（平成29（2017）年10月現在）

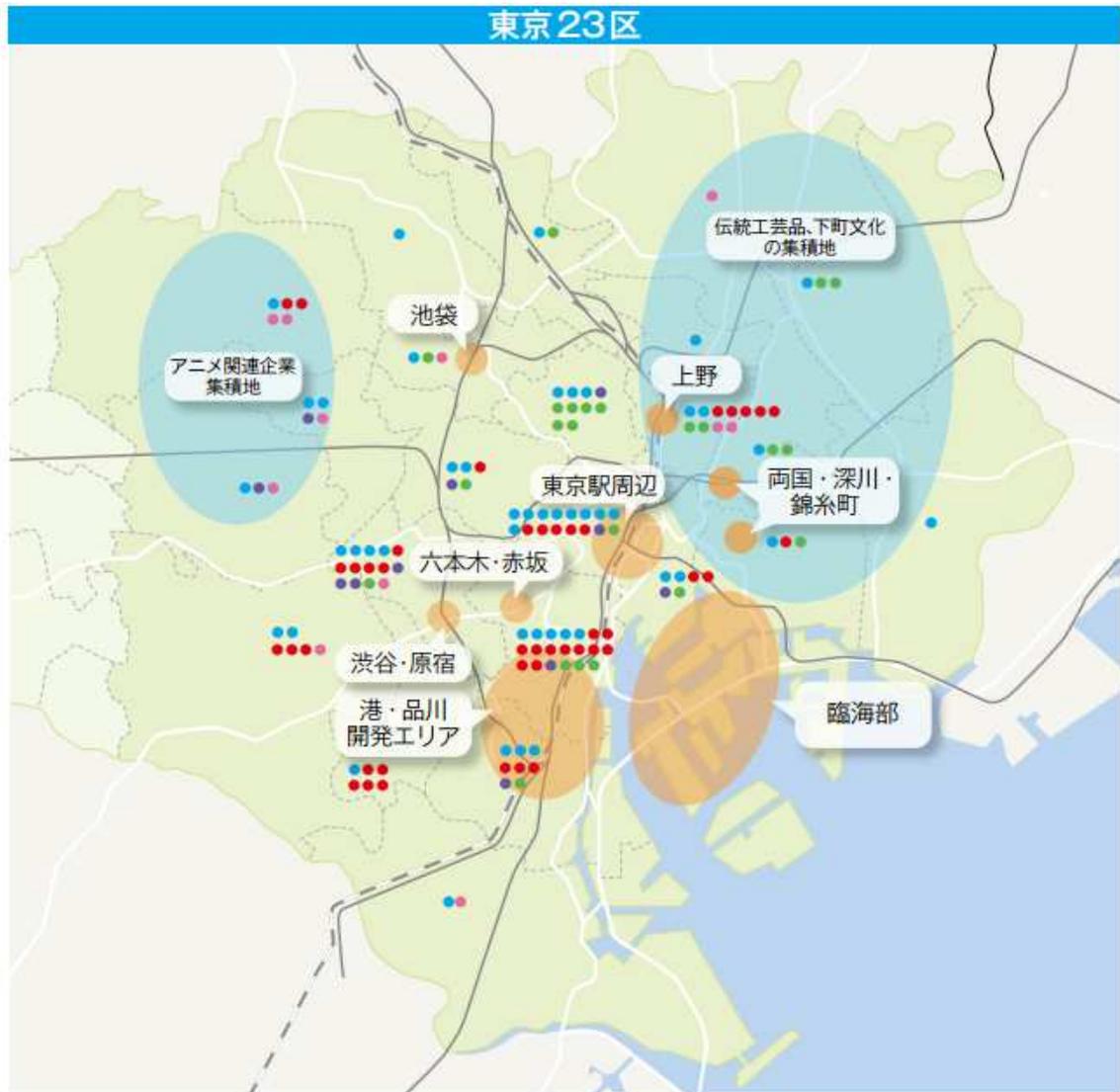
「上野の山文化ゾーン連絡協議会」… 上野の山にある文化施設などが相互に交流・連携を深めることにより、上野の山を芸術・文化の拠点として発展させることを目的として、平成2（1990）年に設立されました。

「したまち台東芸能文化連絡会」… 浅草を中心に集まっている演劇、落語、浪曲、レビューなど、芸能に関する多くの団体と連携協力を図りながら芸能文化の振興を目指すため、平成17（2005）年に設立されました。

## 「東京文化ビジョン」における台東区一帯の位置づけ

- 東京文化ビジョンでは文化戦略のひとつとして「多彩な文化拠点の魅力向上により、芸術文化都市東京の発信力を強化」を位置づけています。
- その戦略のなかで台東区は、墨田区、葛飾区等とともに「伝統工芸品、下町文化の集積地」とされていることに加え、日本を代表する文教施設が集積する地域として上野が取り上げられています。

「東京文化ビジョン」に示される東京23区の文化資源



- |  |  |   |
|--|--|---|
| <p>● ホール(座席数 1,000 席以上)<br/>(出典: 公立ホールについては<br/>公益社団法人全国公立文化施設協会<br/>「平成 26 年度 全国公立文化施設名簿」を<br/>基に作成、民間施設については、<br/>公益社団法人日本演奏連盟「演奏年鑑 2014」<br/>及び公益社団法人日本演劇協会<br/>「演劇年鑑 2014」を基に作成)</p> | <p>● 美術館<br/>(出典: 全国美術館会議参加美術館)<br/>※国公立の別を問わず、<br/>全国の美術館が相互の連絡や提携を<br/>図ることを目的に設立された組織<br/>(371 館加盟・2014 年 5 月 22 日現在)</p> | <p>● 能楽堂<br/>(出典: 能楽協会 HP(2015 年 3 月現在))</p> <p>● 東京の日本庭園おもてなし協議会参加庭園<br/>(30 庭園参加・2014 年 9 月 25 日現在)</p> <p>● 学部(芸術、芸術文化学群、美術、造形、<br/>造形表現、デザイン、音楽)を有する大学<br/>(東京都生活文化局調べ)</p> |
|--|--|---|

「東京文化ビジョン」(平成27(2015)年)より

## 2. 文化・芸術にかかわる多様な人材との連携

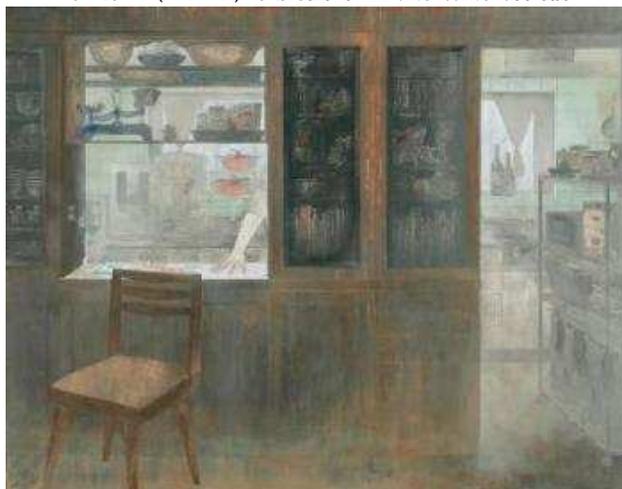
- 台東区は、上野公園の博物館、美術館、動物園に勤める学芸員等の専門家や、美術や音楽をはじめとする様々な分野の研究者や教職員、そして学生など、文化・芸術にかかわる多様な人材が集まっているまちであり、連携を図ることで、特徴的な文化施策の展開や事業の実施につなげています。

### 台東区長賞作品などの公開

- 東京藝術大学生の優秀な卒業制作作品に対し、「台東区長賞」及び「台東区長奨励賞」を授与し、若手芸術家の育成に努めています。
- また、台東区長賞受賞作品など、台東区が所有する貴重な美術作品を、区役所1階の台東アートギャラリーやインターネット上の「台東区ヴァーチャル美術館」などで公開し、区民をはじめ多くの方々に鑑賞していただける機会を設けています。

台東区ヴァーチャル美術館 <http://www.city.taito.lg.jp/bunkasinko/virtualmuseum/index.html>

### 平成28(2016)年度台東区長賞受賞作品



日本画 作品名(手) 作者 杉本純久



油画 作品名(ほしのうみ) 作者 春田紗良

## 上野「文化の杜」新構想

- “上野「文化の杜」新構想”とは、上野地区の文化・文教施設が連携し、文化資源の宝庫である上野の潜在能力を発展させるための新しい構想です。
- 同構想は、東京2020大会に向けて、上野地区の各機関・団体が連携し、「文化の杜」として世界の文化交流のハブ(拠点)となるべく、各文化施設等の整備方針について検討することを目的として、平成25(2013)年12月に設置された“上野「文化の杜」新構想推進会議”で検討され、平成27(2015)年7月、報告書『上野「文化の杜」新構想～2020年東京オリンピック競技大会 日本の顔を世界に～』にまとめられました。
- 報告書では、「文化芸術資源の活用に向けた取組の推進」、「国際文化交流の拠点と新たな賑わいづくりに向けた基盤整備」など、具体的な提言がなされています。
- さらに、報告書では、新構想の実現に向けて取り組みを推進するための実行組織として、実行委員会を新設するよう提言があり、平成27(2015)年9月1日、“上野「文化の杜」新構想実行委員会”が発足しました。
- 平成29(2017)年1月には、“上野「文化の杜」新構想の推進に向けた連絡会議”において、文化と観光が一体となって上野「文化の杜」新構想を強力に推進していくことが確認され、新たな展開を迎えています。

### 【事業概要】

#### アートプログラム事業

- 年間を通じて文化プログラム等の魅力あるイベントを開催することで、上野エリアの文化芸術の国際社会への発信と集客拡充を図るとともに、上野「文化の杜」を中核拠点とした新たな文化芸術の創造・発信を担う芸術家育成や文化芸術振興等を総合的に推進します。

#### ヒューマンプログラム事業

- 「上野市民大学」を創設し、上野が持つ文化資源をベースにコミュニティデザイン、教育や福祉等、幅広い分野のレクチャーを開催し、多彩な人材が集まることで、2020年に向けて広く上野「文化の杜」への市民参加の意識を醸成します。

#### 共通パスポート事業

- 上野エリアの文化芸術資源を有効に活用し、利用者の周遊性の向上を図るため、「UENO WELCOME PASSPORT～上野地区文化施設共通入場券～」を発行しています。



TOKYO数寄フェスの様子(平成28(2016)年度)

### 3. 観光資源としての魅力

- 文化資源のなかでも、世界文化遺産である国立西洋美術館をはじめとする上野公園内の文化施設や、江戸文化の魅力を伝える浅草は、国内外から多くの観光客を集めることのできる観光資源となっています。
- 「谷根千」と呼ばれるエリアの一角である谷中地区は、昔ながらの街並みや建造物が残され、下町風情が感じられるなか台東区や民間の美術館・博物館が点在しており、多くの観光客でにぎわっています。また、多彩な問屋街が集まる浅草橋地区は、交通の要所であった江戸時代のまちの姿や寺社が受け継がれ、魅力的な観光資源のあるエリアです。
- また、不忍池や隅田川の恵まれた自然環境や、アメ横、仲見世、谷中銀座をはじめとした商店街にも、国内外から多くの人々が訪れており、区の特徴的な観光資源となっています。
- さらに、区内各地で催される、地域に根付いた四季折々の祭りや行事は、多彩な魅力が溢れ、多くの観光客を惹きつける台東区の代表的な観光資源としての一面を持ち合わせています。

#### 隅田川花火大会

- 江戸時代の両国の川開きに由来をもつ花火大会で、交通事情の悪化などの事情で中断していたものを昭和53(1978)年に隅田川花火大会の名で場所を変えて復活し、平成29(2017)年に第40回目を迎えました。
- 江戸時代の享保18(1733)年、飢饉や病といった災厄の中で、将軍徳川吉宗が死者の慰霊と悪霊退散を祈り、隅田川の水神祭りを催し、それに合わせて花火を披露したことが起源といわれています。



隅田川花火大会

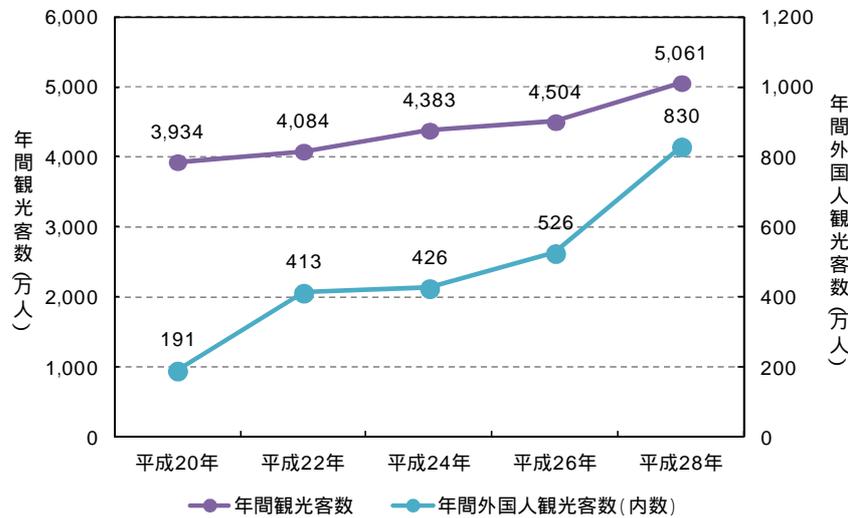
#### 浅草流鏝馬

- 流鏝馬とは馬に乗って3つの的を矢で射る勇壮な催しで、古くは武士の間で盛んでした。
- 江戸時代に正月行事として浅草神社で行われていましたが、昭和58(1983)年より観光行事として復活・継承し、隅田公園特設馬場で行われています。
- 当日は射術の練習として草を束ねた鹿形を的にした草鹿も行われます。



浅草流鏝馬

- 「平成28年度台東区観光統計・マーケティング調査」によると、台東区に訪れる年間観光客数(推計)は5,061万人となっており、そのうち外国人観光客数は830万人です。
- 年間観光客数(推計)を個別にみると、上野公園は1,213万人、アメ横は925万人、浅草地区では1,894万人でした。

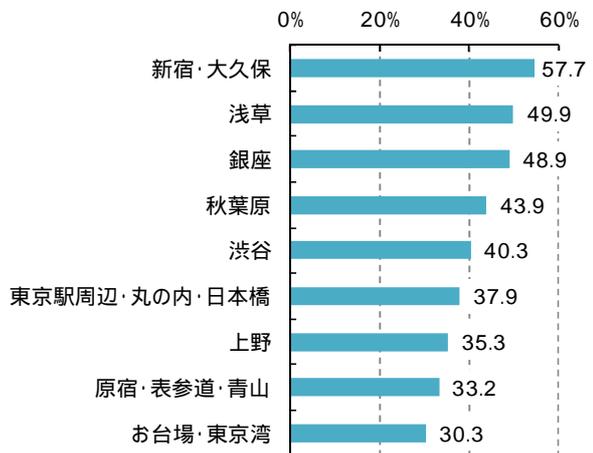


年間観光客数の推移

『平成28年度台東区観光統計・マーケティング調査報告書』より

### 外国人観光客の東京での来訪場所

- 「平成28年訪都旅行者数等の実態調査」によると、東京都に訪れた外国人観光客は約1,310万人となっており、平成27(2015)年の約1,189万人から約100万人増加しています。
- 平成27(2015)年度に実施された「国別外国人旅行者行動特性調査」(東京都)によると、外国人観光客の訪問した場所では浅草が2番目に多く、約半数の外国人観光客が訪れています。
- さらに7位が上野となっており、3割半ばの外国人観光客が訪れています。



『平成27年度 国別外国人旅行者行動特性調査』(東京都)より

### 浅草文化観光センター

- 台東区では、平成24(2012)年4月に観光案内の拠点施設として、世界的建築家である隈研吾氏による設計により、浅草文化観光センターをリニューアルしました。
- 「探せる・見せる・支える」をコンセプトとして、観光客の問い合わせに対応するほか、多目的スペースや展示スペースにて区の魅力を発信しています。
- また、最上階の展望テラスでは、浅草の街並みや東京スカイツリー®が一望でき、浅草文化観光センター自体が観光資源となっており、平成28(2016)年11月には開館以来の来館者が500万人を達成しています。



浅草文化観光センター

### 国内外に向けたシティセールスの展開

- 台東区では、東京2020大会を見据え、平成27(2015)年度からの6年間における観光振興施策をまとめた台東区観光振興計画を策定しました。
- 同計画では、基本方針のひとつとして「多様な来訪者に対して台東区の魅力を的確にアピールする～的確で細やかな情報発信・プロモーションの実施～」を掲げ、(公財)東京観光財団や日本政府観光局と連携したシティセールスを展開することを位置づけています。
- また、姉妹・友好都市で行われる祭りなどでの区の魅力のPRや、在住外国人や海外邦人ネットワークと連携した口コミでの情報拡散にも取り組んでいます。
- 台東区観光振興計画では、歴史・芸術・文化を活かした観光魅力の創出も施策として位置づけられており、まさに観光資源として文化・芸術を捉えています。



国内外でのシティセールスの様子

## 4. 文化の力を活かしたものづくり産業との連携

- 台東区は、江戸時代以来の歴史と下町の伝統文化を基礎に、伝統と革新が交差しながら、常に新しいスタイルを生み出すことで、多様性のある産業集積地として発展してきました。
- 歴史と伝統に培われた「ものづくりのまち」であるという区の地域イメージ全体、ものづくり産業全体を「台東区ブランド」として発信し、「品質の高い商品」、「ものづくりの技術力」、「産業集積力」等、台東区独自のまちの魅力を高める取り組みを進めています。
- また、デザイナーやアーティストなどの創造性豊かな人材とものづくり産業をつなぎ、文化の力を活かした産業振興も行うことで、進取の気風で新しい産業・新しい文化を生み出していく取り組みも行っています。

### 江戸下町伝統工芸の振興

- 日本有数の伝統工芸産業の集積地である台東区の強みを活かし、江戸の昔から受け継がれてきた台東区の伝統工芸の普及、発展、販路拡大等を図っています。
- 江戸下町伝統工芸館での展示・PRのほか、下町風俗資料館での実演や体験機会の提供、さらには区主催で国立博物館にて伝統工芸職人展を毎年開催しています。
- 伝統工芸品の魅力の紹介、伝承について、さらに発信していくためのホームページも準備しています。



江戸下町伝統工芸館

### 地場産業の海外に向けたプロモーション展開

- 区では、平成29(2017)年度からの5年間における産業振興施策をまとめた台東区産業振興計画を策定しました。
- 同計画では、区の産業の目指すべき姿を「世界に躍動する産業都市 たいとう」と掲げ、ものづくり産業を中心とした地場産業の魅力のプロモーションを行うことを、方向性のひとつとして位置づけています。
- プロモーションのひとつとして、海外で行われる展示会に関係支援機関と連携しながら台東区として出展し、区内の中小企業の製品や地場産業・伝統工芸産業の紹介を行い、「台東区ブランド」のPRとともに販路拡大に取り組んでいます。

### 浅草ものづくり工房

- 「浅草ものづくり工房」は、地場産業とクリエイターが連携するものづくりの新たな拠点であり、区内で発展してきた皮革製品を中心としたクリエイターのための創業支援施設です。
- 平成21(2009)年の開設以来、20組のクリエイターが卒業しており、そのうち8割(16社)が区内に工房や事務所、店舗等を構え、地元に基づいた製作・事業を行っています。
- 入居者や卒業生のネットワークも形成されつつあり、東京レザーフェアに出展するなど、地域産業とのコラボレーションも様々な形で模索されています。特に奥浅草の地域イベント「浅草エーラウンド」とは、“革とものづくりの魅力”を広くアピールし、人・まち・産業の活性化を推進しています。



浅草ものづくり工房

### 台東デザイナーズビレッジ

- 台東デザイナーズビレッジは、ファッションや雑貨等のものづくり系デザイナー・クリエイターのためのインキュベーション施設です。
- 旧小島小学校の校舎を活用した台東デザイナーズビレッジは、平成16(2004)年の開設以来、81事業者が卒業し、うち約45%が区内で起業しています。浅草ものづくり工房と同じく、区内に集積するものづくり産業や伝統的な技術が、自分のブランドを立ち上げたいデザイナー・クリエイターと結びつき、地域に根を張る結果となっています。
- 近年、台東デザイナーズビレッジ周辺は、デザイナー・クリエイターが集まるエリアとして注目されており、ものづくりのまち・台東区をPRする地域イベント「モノマチ」の開催に合わせて、台東デザイナーズビレッジの施設公開も行っています。



台東デザイナーズビレッジ

## 第3章 事業のPRに関する基本的な考え方

### 1. プログラムにて発信する事業

- 「たいとう文化発信プログラム」では、台東区の文化・芸術に関するポテンシャルを踏まえつつ、さらなる魅力を見出しながら、次の5つの視点に基づき、2020年、さらにその先を見据え、区の魅力を伝える事業をPRしていきます。
- 「たいとう文化発信プログラム」の推進にあたっては、現在、区内で行われている事業だけでなく、今後区内で行われる事業についても随時、発信する事業として加えながら発展的な展開を図ります。

2020年に向けて活用 / 協調できる  
国・東京都の動向

- 日本・東京の文化の世界に向けた発信
- 文化・芸術の力の他分野への活用

台東区の文化・芸術に関するポテンシャル

- 全国的にも有数の文化資源の集積
- 文化・芸術にかかわる多様な人材との連携
- 観光資源としての魅力
- 文化の力を活かしたものづくり産業との連携



5つの視点に基づく事業の発信

- 視点1 文化資源の継承
- 視点2 文化の魅力の発信
- 視点3 あらゆる人々の参加
- 視点4 次世代育成
- 視点5 新たな文化の創造

### 2. 多様な主体による事業の一体的な情報発信

- 「たいとう文化発信プログラム」には、台東区が「台東区の文化政策についての提言」を踏まえて長期総合計画、行政計画に位置づけて実施する文化事業のみならず、区芸術文化財団による事業、さらには文化の力を活かして台東区が取り組む観光・産業に関する事業も位置づけ、台東区と区芸術文化財団等が一体となった文化の魅力の発信を目指します。
- 周辺自治体や東京都、国などとの連携で行う事業や、芸術系大学や文化施設等と取り組む事業など、台東区が実施主体の一員として参加している事業も位置づけます。
- 本プログラムに位置づける対象は、区民やNPO等の団体、事業者による文化・芸術にかかわる取り組みにまで積極的に対象を広げていくことで、区内の多様な主体が参画し、区の文化の魅力の発信を加速させていきます。

### 3.5つの視点

#### 視点1 文化資源の継承

貴重な歴史的建造物をはじめとする有形の文化資源だけでなく、伝統芸能や演芸、伝統工芸などの無形の文化資源が区内に集積していることも台東区の特徴と言えます。

これら多彩な有形無形の文化資源を適切に保存するにあたっては、区民がそれを大切に思う心を育むとともに、次世代の担い手を育てることも大切です。豊富な文化資源を未来につないでいくためにも、様々な媒体や機会を通じて活用を図り、価値を顕在化させます。

##### 事業例 「旧東京音楽学校奏楽堂」保存活用工事・管理運営

国の重要文化財である旧東京音楽学校奏楽堂を後世に継承していくため、文化財的価値を維持する工事を実施し、適切に管理運営を行います。

#### 視点2 文化の魅力の発信

文化教育・学術機関が集積する上野、江戸を感じさせる粋な下町文化が息づく浅草をはじめとして、区内には日本を代表する文化資源の魅力が溢れています。

区内の多様な文化は、観光の面においても訴求力のあるものであり、国内外から多くの人々を惹きつけています。東京2020大会に向け、国や東京都における文化をより広く発信しようとする時流に合わせ、祭りや展覧会、コンサート、講演会などイベントの開催や、インターネットなどによる情報発信を推進することで、「歴史と文化のまち」としてのイメージを広め、区の文化の魅力を効果的に伝えます。

##### 事業例 上野の山文化ゾーンフェスティバル

上野の山ならではの多様な文化施設間の連携を図り、幅広い分野にわたる講演会シリーズをはじめとした催しを開催することで、文化・芸術の拠点としての魅力を発信します。

#### 視点3 あらゆる人々の参加

オリンピック・パラリンピックの開催は、異文化を知り、多様性を受け容れるきっかけでもあります。2020年、さらにその先に向けて、年齢や性別、障害の有無、言葉などの違いにかかわらず、あらゆる人々が区の文化・芸術を享受する機会をつくるとともに、主体的に参加できる場を提供し、文化・芸術にかかわる取り組みに参加できるようにします。

##### 事業例 (仮称)障害者アーツ

文化芸術活動の参画者拡大と障害者の理解促進を図るため、障害者の文化芸術活動支援の新たな取り組みを検討します。

#### 視点4 次世代育成

様々な文化資源が身近にある台東区的环境を活かし、次代を担う子供や若者が、自分の住むまちで気軽に文化・芸術に触れることで創造性を育むとともに、区の歴史や伝統を知ることでもちへの愛着を育むための機会をつくります。

さらに、美術や音楽をはじめとする様々な分野の研究者や教職員、学生等が多く集うことに加え、伝統産業の担い手や創造的なものづくりに携わるクリエイターも集積するまちであることから、若手の芸術家やものづくりの担い手等、次代の文化を担う人材を支援し育てていきます。

##### 事業例 芸術文化支援制度

若手芸術家や先駆的な芸術文化活動に対する支援制度などを実施し、芸術家・芸術団体の支援・育成を図ります。

#### 視点5 新たな文化の創造

台東区は、歴史や伝統を継承するだけでなく、文化資源に新たな価値を見出すことや、多様な人々による交流、また新たな文化を取り入れることを通して文化的に発展してきたまちです。

そのような進取の気風から、豊富な文化資源や区内に集積する多様な人材の新たな発想を活かし、また産業や観光などの他分野と文化を組み合わせることで、文化・芸術にかかわる取り組みを東京2020大会に向けて活性化させていき、大会終了後にもレガシーとして区に根づくような新しい文化を創出します。

##### 事業例 上野「文化の杜」新構想

上野公園に集まる文化教育・学術機関が相互に連携・協力して、上野公園が「文化の杜」として、日本の文化芸術を世界に向けて発信する拠点となることを目指します。

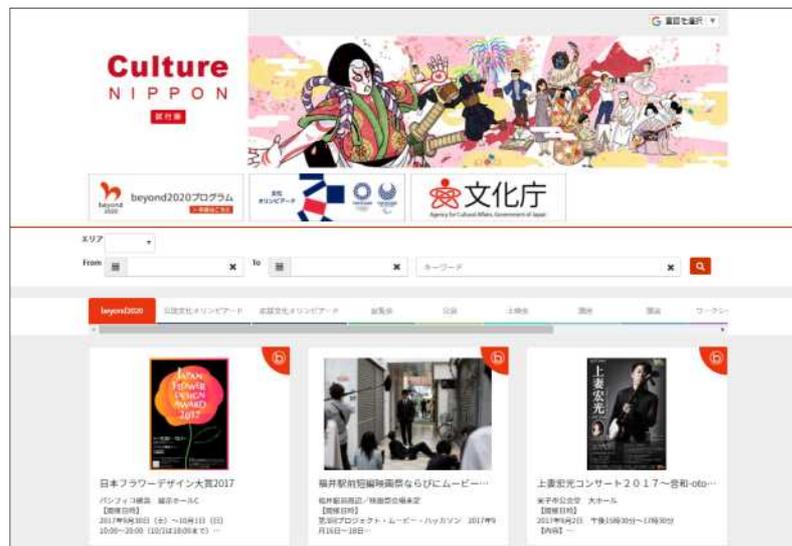
## 第4章 「たいとう文化発信プログラム」の展開

### 展開

1. 専用ウェブサイト等による事業PR
2. 独自のロゴマークによる統一感のあるPR展開
3. 組織委員会や国などの文化プログラム認証制度の積極利用

### 1. 専用ウェブサイト等による事業PR

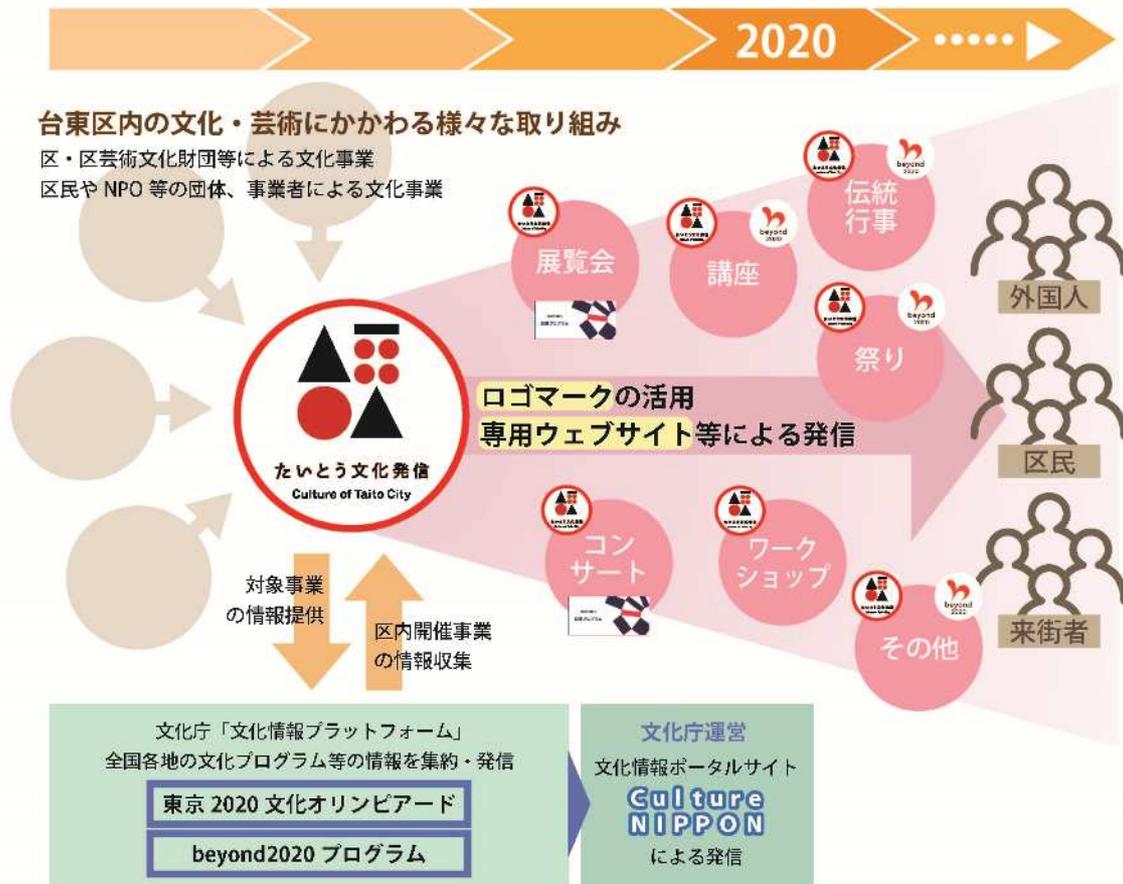
- 「たいとう文化発信プログラム」の対象事業を集約し、国内外に向けて発信していくメディアとして、専用ウェブサイトを構築し、台東区や区芸術文化財団の事業をはじめ、区内の文化・芸術にかかわる様々な取り組みを広くPRします。
- パンフレット等の紙媒体では情報が固定化されますが、情報を更新できるウェブサイトを活用することで、策定後の発展性を図り、追加する事業も随時発信していくことができます。また、既存のウェブサイト(台東区文化ガイドブック「文化探訪」、観光情報サイト「TAITOおでかけナビ」等)との連動、さらには外部のSNSなどへの展開も可能となり、積極的な情報発信を図ります。
- 多言語展開により、国外への発信や外国人観光客への情報提供に取り組みます。
- 専用ウェブサイトの外部連携機能として、文化庁による全国各地の文化プログラム等に関する情報を集約・発信する「文化情報プラットフォーム」との連携を行います。
- また、ニューズレターの定期発行等、紙媒体による「たいとう文化発信プログラム」の取り組みのPRを行うことで、より広く区民への普及促進を図ります。



文化庁「文化情報ポータルサイト Culture NIPPON」

## 2. 独自のロゴマークによる統一感のあるPR展開

- 「たいとう文化発信プログラム」のロゴマークを独自に作成し、専用ウェブサイトで活用するほか、対象となる事業の広報媒体で活用することで、統一感のあるPRを展開していきます。
- 区主催の事業だけでなく、同プログラムの対象となるあらゆる事業でロゴマークを使用できるようにします。そして、区内における文化・芸術にかかわる様々な取り組みの広報において、共通のロゴマークが活用されることにより、区全体での一体感をつくっていきます。



## 3. 組織委員会や国などの文化プログラム認証制度の積極利用

- 「たいとう文化発信プログラム」の対象となる事業については、組織委員会による東京2020文化オリンピックはもちろん、幅広い主催者が利用することのできる国などによるbeyond2020プログラムを積極的に活用し、全国に向けた情報発信の機会とします。
- 区内の文化・芸術にかかわる様々な取り組みの盛り上がりを東京都、そして国へとつなげていくことで、東京2020大会の機運醸成や文化的なレガシーの創出に大きく貢献します。



## 參考資料

## 「たいとう文化発信プログラム」の対象事業一覧

平成29(2017)年10月現在の、今年度の実施事業を掲載しています。(一部を除く)

今後、区による新規事業だけでなく、区民やNPO等の団体、事業者による文化事業等を随時追加し、発展的な本プログラムの展開を図ります。

視点1.文化資源の継承    視点2.文化の魅力の発信    視点3.あらゆる人々の参加  
 視点4.次世代育成    視点5.新たな文化の創造    各事業の主となる視点を太字で記載

事業名	事業概要	所管課	視点
区立文化施設管理運営	区立文化施設の適切な管理運営をします。(朝倉彫塑館・下町風俗資料館・一葉記念館・書道博物館・旧東京音楽学校奏楽堂)	文化振興課	視点1 視点2 視点4
「旧東京音楽学校奏楽堂」保存活用工事	移築以来30年を経過した旧東京音楽学校奏楽堂(重要文化財)を適切に保存するとともに後世へ継承していくための改修工事を行います。	文化振興課	視点1 視点2
「旧東京音楽学校奏楽堂」リニューアルオープン記念式典 30年度実施予定	旧東京音楽学校奏楽堂の保存活用工事が30年6月に竣工予定のため、30年秋にリニューアルオープンを記念する式典及び事業を実施します。	文化振興課	視点1 視点2
台東芸能文庫	演劇、落語、漫才、講談、浪曲など芸能文化の記録・保存・活用を図り、後世に伝えていくことを目的にDVDシリーズ「台東芸能文庫」を制作します。	文化振興課	視点1 視点2
技能者顕彰・育成	地場産業や伝統工芸産業等に従事する優秀な技能者の功績を称え、技能者と台東区のものづくりを広く周知するとともに、後継者育成を図ります。	産業振興課	視点1 視点2 視点3 視点4
文化財調査 区民文化財登載・指定	寺院調査や古記録調査などを行い、その結果に基づき、区民文化財台帳への登載や指定を行います。	生涯学習課	視点1 視点2
文化財調査報告書刊行	文化財等について、多くの方々に、わかりやすく伝え、より深く台東区を理解し郷土愛を深めてもらうため、文化財調査報告書を刊行します。	生涯学習課	視点1 視点2
文化財復元補助	文化財保護法並びに都及び区の文化財保護条例の趣旨に則り、一定の要件を満たした文化財保存事業に対し、補助金を交付し、文化財の保護・保存を支援します。	生涯学習課	視点1
台東区映像アーカイブ	区民が所有する8mmフィルム等をデジタル化して貴重な映像資料の散逸を防ぐと共にDVDに編集し、図書館等で貸出しています。	生涯学習課	視点1 視点2
台東区発足70周年記念誌	区の取り組みの紹介や世界遺産登録までの歩み、「30年後の台東区」をテーマにした作文コンクール作品などを収録する記念誌を発行します。	広報課	視点1 視点5

事業名	事業概要	所管課	視点
隅田公園サクラ再生事業	講演会などの周知活動、生育環境改善工事、樹勢回復作業を実施し、サクラの名所としての隅田公園の維持に取り組みます。	公園課	視点1
世界文化遺産継承	国立西洋美術館の周辺環境の保全に努め、パンフレット・DVD・小学生向け教材の作成・配布および区民講座・パネル展の開催による普及・啓発活動を行います。	都市交流課	視点1 視点2 視点4
ユネスコ「世界の記憶」登録推進	朝鮮通信使関連資料のユネスコ「世界の記憶」登録実現に向けて、「NPO法人朝鮮通信使縁地連絡協議会」と連携し、周知・啓発活動を行います。	都市交流課	視点1 視点2
台東薪能	我が国の伝統芸能である「能」を広く区民に鑑賞していただくとともに、事前にワークショップを開催し、伝統文化に対する認識と理解を深めていただきます。	芸術文化財団	視点1 視点2 視点3
宮中雅楽 4年に一度開催	重要無形文化財である宮内庁式部職楽部による宮中雅楽の演奏を一般公開します。	芸術文化財団	視点1 視点2 視点3
上野の山文化ゾーン フェスティバル	上野の山文化ゾーン連絡協議会による協働事業として、パンフレットを作成し、展覧会や、各施設の講師による講演会シリーズを実施します。	文化振興課	視点2 視点3
台東区文化ガイドブック 「文化探訪」	区内の豊富な文化資源の魅力が多様な切り口から、読み応えのある記事、美しい写真や動画とともに多言語で発信します。	文化振興課	視点1 視点2 視点3
台東区芸術文化情報サイト	区内に存在する劇場・音楽ホール・ギャラリー・稽古場などの芸術文化関連施設の情報を集約・発信します。	文化振興課	視点2 視点4
したまちコメディ映画祭in台東	上野・浅草両地域で、下町らしい活気あふれる映画祭を開催し、文化・芸術のまちとして台東区の魅力を国内外へ発信します。	文化振興課	視点2 視点3 視点4
したまち演劇祭in台東	上野・浅草の会場をメインに公募による劇団の演劇公演、地元中高生によるステージや藝大と連携した子供向けワークショップなどを実施します。	文化振興課	視点2 視点4
したまち台東芸能文化 ミニ実演イベント	気軽に演芸、落語、漫才、浪曲など芸能文化をご覧いただける無料の実演イベントを開催します。	文化振興課	視点1 視点2
伝統工芸産業の振興	江戸下町伝統工芸館の運営等を通じ、伝統工芸の普及、発展、販路拡大など、伝統工芸産業の振興を図ります。	産業振興課	視点1 視点2 視点3 視点4

事業名	事業概要	所管課	視点
伝統工芸産業の情報発信	専用のウェブサイトにより、区内伝統工芸職人や工房、伝統工芸品の製造過程や入手方法等の総合的な情報を提供します。	産業振興課	視点1 視点2 視点3 視点4
海外プロモーション推進	海外展示会に「台東区ブース」を確保するなどし、区の産業・製品をPRすることで、区内中小企業の海外での販路開拓や事業展開を支援します。	産業振興課	視点2
中小製造業のアトリエ化支援	製造工程やものづくりの現場を外から見えるようにするための店舗の改修の支援等を行い、ものづくりのまちの魅力の向上を図ります。	産業振興課	視点1 視点2 視点3
隅田川花火大会	江戸時代の両国の川開きに由来をもつ花火大会で、両国花火ゆかりの業者をはじめとした10社が競う花火コンクールを実施します。	観光課	視点1 視点2
浅草流鏑馬	流鏑馬を伝統行事として継承するとともに弓馬術、弓術の伝統文化を後世に伝え、観光客誘致と活性化を図ります。	観光課	視点1 視点2
日本語版観光ウェブサイト「TAITOおでかけナビ」	民間サイトと連携し、「食べる」「見る」「買う」「泊まる」等のおでかけ情報と、最新イベント情報や文化・観光情報を発信します。	観光課	視点2
英語版観光ウェブサイト「Visit Authentic TOKYO」	英語版の観光ウェブサイトにより、外国人に向けた情報発信を強化して、国外からの誘客を促進します。	観光課	視点2
SNSによる多言語観光情報発信	即時性の高いSNSを活用して、鮮度の高い観光情報の発信を行います。多言語で運営することで、国内外から広く誘客を図ります。	観光課	視点2
フィルム・コミッション	江戸時代から続く豊かな歴史、多彩な芸能・芸術文化が残る区の地域資源をロケ地として提供することで、区の魅力を国内外にアピールします。	観光課	視点2
上野不忍華舞台	江戸の伝統芸能を楽しめる催しを不忍池水上音楽堂で開催します。	観光課	視点1 視点2
史跡説明板設置	史跡散策に活用してもらうため、区の豊かな歴史的風土に含まれた文化財を紹介する史跡説明板を整備します。	生涯学習課	視点1 視点2
文化財講座	歴史的な資源を後世に継承する意義や重要性を広く周知し、区民の文化財保護、保存の意識や郷土愛を高めていくための文化財講座を開催します。	生涯学習課	視点1 視点2
埋蔵文化財普及啓発	埋蔵文化財の展示などを行い、文化財の保護、保存の意識の啓発を図ります。	生涯学習課	視点1 視点2

事業名	事業概要	所管課	視点
台東区文化祭	「文化の日」を中心に社会教育活動団体の日頃の活動や学習成果を、展示や舞台発表などを通じて、広く区民に周知します。	生涯学習課	視点1 視点2 視点3
台東区美術展	区民創作の美術作品を公募し、リバースサイドギャラリーに展示します。台東区美術会と教育委員会が共催し、優秀作品については、表彰を行います。	生涯学習課	視点1 視点2
ミレニアムホールふれあいコンサート ヴァイオリンとピアノの夕べ(未定)	音楽家によるコンサートを生涯学習センターミレニアムホールで開催することで、区民に対し音楽鑑賞の機会を提供します。	生涯学習課	視点2
ミレニアムホールふれあいコンサート おとあそび 親子音楽会(未定)	音楽家によるコンサートを生涯学習センターミレニアムホールで開催することで、区民に対し音楽鑑賞の機会を提供します。	生涯学習課	視点2
貴重資料のデータベース化とホームページ公開	デジタル化した貴重資料のデータベースを構築し、ホームページで公開します。	中央図書館	視点1 視点2
台東区ゆかりの文学作品や郷土資料にちなんだ企画展・講演会	台東区ゆかりの文学作品や郷土資料にちなんだ企画展や講演会などを開催します。	中央図書館	視点1 視点2
池波作品にちなんだ企画展示や講座・文学散歩	池波正太郎に関する資料を活用し、池波作品にちなんだ企画展や講座、文学散歩を開催します。	中央図書館	視点1 視点2
景観形成資源選定	景観形成において重要であると認められる建築物等を「景観形成資源」として選定し、周知していくことで、景観保全への配慮と意識啓発を図ります。	建築課 都市計画課	視点1 視点2
環境をテーマにした東京藝術大学学生作品の展示	東京藝術大学美術学部の選定のもと、環境をテーマとした東京藝術大学の学生の絵画を環境ふれあい館の7階ロビーに展示します。	環境課	視点2 視点5
笑って元気教室	区内在住在勤の40歳以上の方を対象に、お笑い芸人による漫才と、健康運動指導士による簡単な運動等を合わせた教室を開催します。	保健サービス課	視点1 視点2 視点5
浅草・うた散歩 - ファイナル -	女性アンサンブルと男性歌手の歌を中心に、唱歌や童謡など懐かしい日本の歌を楽しめるコンサートを開催します。	芸術文化財団	視点2 視点3 視点4
UENO JAZZ INN	第一線で活躍中のジャズミュージシャンの共演や、浅草ジャズコンテストでグランプリ受賞したプロのアーティスト達によるジャズコンサートを開催します。	芸術文化財団	視点2 視点3
邦楽爛漫 2年に一度開催	日本舞踊、箏曲、雅楽、能楽など、邦楽への関心を深めていただくため、東京藝術大学邦楽科の教員、日本舞踊家などが華やかな舞台を構成します。	芸術文化財団	視点1 視点2 視点3

事業名	事業概要	所管課	視点
下町大音楽市	区民にクラシック音楽を親しむ機会を提供するため、区内のアマチュアオーケストラによるクラシック音楽のコンサートを開催します。	芸術文化財団	視点2 視点3 視点4
朝倉彫塑館 特集展示(常設展示内)・特別展	テーマに合わせた特集展示(常設展示内)・特別展を開催します。	芸術文化財団 (朝倉彫塑館)	視点1 視点2 視点3
朝倉彫塑館 平成29年度特別展イベント 「ファミリーワークショップ」	特別展の期間中、親子で展示を楽しみながらものづくりの楽しさにふれるワークショップを開催します。	芸術文化財団 (朝倉彫塑館)	視点1 視点2 視点3 視点4
下町風俗資料館 企画展・特別展	テーマに合わせた企画展・特別展を開催します。	芸術文化財団 (下町風俗資料館)	視点1 視点2 視点3 視点4
芸術・技術実演会 (こども土曜塾・紙芝居・定期実演会・伝統工芸実演会・伝統工芸体験教室)	江戸時代から続く木版画彫刻や仏像彫刻、紙芝居等の実演会や、昔の子供の遊び、伝統技術の継承を図り、こども土曜塾等を開催します。	芸術文化財団 (下町風俗資料館)	視点1 視点2 視点3 視点4
一葉記念館 企画展・特別展	テーマに合わせた企画展・特別展を開催します。	芸術文化財団 (一葉記念館)	視点1 視点2 視点3
一葉祭	一葉の命日(11月23日)を中心に、講演、朗読、作品展示、「たけくらべ」ゆかりの地めぐり等のイベントを通じ一葉を偲び、その文学の普及を図ります。	芸術文化財団 (一葉記念館)	視点1 視点2 視点3
文化ボランティアガイド	文化ボランティアガイドを育成し一葉記念館の来館者への施設案内や展示資料等の案内を行います。	芸術文化財団 (一葉記念館)	視点1 視点2 視点3
N響シリーズ「ブランデンブルク協奏曲」全曲演奏会 旧奏楽堂休館中は2年に一度開催	クラシック音楽への関心と理解を深めるために、NHK交響楽団メンバーを中心とした室内合奏団による演奏会を開催します。	芸術文化財団 (奏楽堂)	視点2 視点3
書道博物館 企画展・特別展	テーマに合わせた企画展・特別展を開催します。	芸術文化財団 (書道博物館)	視点1 視点2 視点3 視点4
「台東第九公演」下町で第九	区・台東区民合唱団・東京藝術大学による台東第九公演実行委員会を組織し、東京藝術大学奏楽堂において台東第九公演を実施します。	文化振興課	視点3
台東区発足70周年記念シンポジウム「横山大観を語る」	横山大観にゆかりのある方々をパネリストとして招き、大観の人物像や作品、時代背景等について解説を行います。	文化振興課	視点1 視点3
花の心プロジェクト	東京2020大会に向け、花を慈しむ心、思いやりとおもてなしの心をもって、花でまちを飾り、心豊かでうるおいのあるまち台東区を世界にアピールします。	環境課	視点1 視点2 視点3 視点4

事業名	事業概要	所管課	視点
環境・ごみ減量・リサイクル講演会 (町会等団体向け)	町会等の団体を対象に「環境・ごみ減量・リサイクル講演会」を環境漫才師に依頼し、普及啓発を図ります。	環境課	視点3
寿作品展示会	老人クラブ会員を主体とする高齢者や小学校児童等の作品の展示会を開催し、高齢者の生きがいづくりと仲間づくりの促進、他世代との交流を図ります。	健康課	視点3
GTSワークショップ・フォトラリー	小学生を対象にGTS作品をテーマとした美術ワークショップの開催にわえ、GTS観光アトラインを巡り作品を撮影するフォトラリーを実施します。	文化振興課	視点4
台東デザイナーズビレッジ運営	若手デザイナー・クリエイターを育成し、ファッション雑貨産業を活性化させるため、ファッション関連ビジネスを対象とした創業支援施設を運営します。	産業振興課	視点4
浅草ものづくり工房	地場産業を活性化させるため、皮革をはじめとする地場産業のものづくりにかわる事業を創業する人を支援し、区内定着を図ります。	産業振興課	視点4
台東区歴史・文化検定 台東区歴史・文化テキスト	区内在住・在学の小学校5・6年生と中学生を対象に、台東区の歴史や文化に関する検定を実施します。検定にあわせて、区の豊かな歴史や文化、伝統について、写真や図版を豊富に使用し、解りやすく説明したテキストを刊行します。(5年毎に改定)	生涯学習課	視点4
台東区ジュニアオーケストラ 演奏会	青少年教育の一環として、情操教育を重点とした組織的教育活動を推進するために、区内在住・在学の青少年男女で構成されたジュニアオーケストラによる演奏会を開催します。	生涯学習課	視点2 視点4
台東区上野の森ジュニア合唱団 演奏会	青少年教育の一環として、情操教育を重点とした組織的教育活動を推進するために、区内在住・在学の青少年男女で構成された上野の森ジュニア合唱団による演奏会を開催します。	生涯学習課	視点2 視点4
環境・ごみ減量・リサイクル ポスター・標語コンクール	区立小・中学生から、環境・ごみ減量・リサイクルに関するポスター・標語を募集し、表彰することで、普及啓発を図ります。	環境課	視点2 視点3 視点4
環境・ごみ減量・リサイクル講演会 (小中学校向け)	区立小・中学生を対象に「環境・ごみ減量・リサイクル講演会」を環境漫才師に依頼し、普及啓発を図ります。	環境課	視点4
伝えよう親と子のふれあい広場	子どもと保護者、そして子育てを支える区民を対象に、子守唄やわらべ唄などの講習会を開催し、子どもと親、地域のふれあいを支援します。	子ども家庭支援センター	視点1 視点3 視点4
弦楽アンサンブル (TGS) コンサート	芸術大学の最高峰と評される東京芸術大学音楽学部で学び、その後プロとして活躍する若き音楽家たちによる弦楽アンサンブル演奏会を開催します。	芸術文化財団	視点2 視点3 視点4

事業名	事業概要	所管課	視点
コンサート フォー キッズ	保護者と未就学児が一緒にクラシック・コンサート体験ができるように、楽しいお話と子どもの大好きなリズムカルな曲を交えたコンサートを開催します。	芸術文化財団	視点3 視点4
ミッフィーこどもミュージカル	0歳から小学生を対象として、人気キャラクターによるミュージカルコンサートを開催し、親子でのミュージカル体験と音楽に親しむ機会を提供します。	芸術文化財団	視点3 視点4
浅草ジャズコンテスト	横浜・神戸と並び日本ジャズゆかりの地でもある浅草において、ボーカルとバンドの2部門により、優れた歌手・演奏家を発掘するコンテストを実施します。	芸術文化財団	視点2 視点3 視点4
邦楽フレッシュコンサート	東京藝術大学音楽学部の学生による親しみやすい邦楽曲や自ら作曲・作舞した演目を演奏するコンサートを開催します。	芸術文化財団	視点1 視点2 視点3 視点4
奏楽堂日本歌曲コンクール	日本歌曲の普及と発展を図るため、広く参加者を募り、奏楽堂にふさわしい日本歌曲コンクールを開催します。	芸術文化財団 (奏楽堂)	視点2 視点3 視点4
奏楽堂日本歌曲コンクール 入賞記念コンサート	奏楽堂日本歌曲コンクールの入賞者による記念コンサートを開催します。	芸術文化財団 (奏楽堂)	視点2 視点3 視点4
藝大生による木曜コンサート	毎月異なる内容で、東京藝術大学音楽学部学生及び大学院生による芸術性の高いクラシック音楽を提供するコンサートを開催します。	芸術文化財団 (奏楽堂)	視点2 視点3 視点4
藝大の卒業・修了作品への 台東区長賞・奨励賞授与	東京藝術大学生の優秀な卒業・修了制作作品に対し、「台東区長賞」及び「台東区長奨励賞」を授与し、若手芸術家の育成に努めます。	文化振興課	視点4 視点5
芸術文化支援制度	区内で実施する芸術文化活動を、資金面の支援とともに、より魅力的に企画が実現できるよう、区と台東区アートアドバイザーがサポートします。	文化振興課	視点3 視点4 視点5
たなか舞台芸術スタジオ	演劇・芸能・舞踊等の公演に向けた稽古場を提供することにより、文化・芸術活動を支援し、区民が芸術文化に触れる機会を創出します。	文化振興課	視点4 視点5
上野「文化の杜」新構想	上野「文化の杜」が国際的なシンボルとなるよう、関係機関と連携しながらハード・ソフト両面にわたる取り組みを推進します。	文化振興課	視点2 視点3 視点5

# 組織委員会・国による文化プログラムの取り組み

## 1. 東京2020文化オリンピック(組織委員会)

- 組織委員会は、東京2020大会を一過性のイベントにするのではなく、出来るだけ多くの人々が参画し、あらゆる分野で東京2020大会がきっかけとなって社会が変わったと言われるような大会を目指しています。『東京2020参画プログラム』は、「東京2020大会ビジョン」「アクション&レガシープラン2016」の下に、様々な組織・団体がオリンピック・パラリンピックとつながりを持ちながら東京2020大会に向けた参画・機運醸成・レガシー創出に向けたアクションが実施できる仕組みです。(組織委員会が組織・団体の「アクション」への認証・マークを付与する)。
- 東京2020文化オリンピックは、「スポーツ・健康」「教育」など8分野で構成される「東京2020参画プログラム」の「文化」を担うプログラムとして位置づけられています。

### 東京 2020 大会ビジョン

大会テーマ：スポーツには、世界と未来を変える力がある。

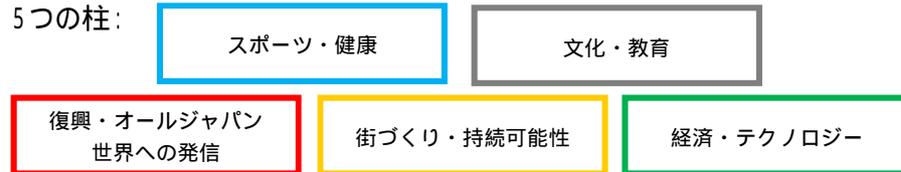
大会コンセプト：

- 「すべての人が自己ベストを目指し(全員が自己ベスト)」
- 「一人ひとりが互いに認め合い(多様性と調和)」
- 「そして、未来につなげよう(未来への継承)」

### アクション&レガシープラン 2016

できるだけ多くの方々、自治体や団体に参画していただく【アクション】。  
次代を担う若者や子供たちに継承していく【レガシー】。

5つの柱：



- 認証を受けることで実施可能な事項
  - 東京2020公認マークまたは東京2020応援マーク及び各プログラム名の使用
  - 「オリンピック・パラリンピック」等の文言使用(文言はIOC・IPCの知的財産としての保護対象)
- プログラム参画へのメリット
  - 東京2020大会とつながる(オリンピック・パラリンピック大会の機運醸成)
  - オリンピック・パラリンピックとの関連性・つながりを生み出すことができる
  - アクション主催者・参加者等に東京2020大会に向けた参加感を創出
  - 地域でつながる(地域住民や関係団体等との連携)
  - 主催者と参加者、参加者同士のつながり等、新たな関係性を構築することができる
  - 地域が連携して機運を盛り上げていく機会を創出
  - 全国とつながる(活動の知名度向上と連携の拡大)
  - 組織委員会から全国への情報発信を通じ、地域や団体の情報を広くPRすることができる
  - 活動の知名度向上と他団体等との幅広い連携に向けた機会を拡大
  - 未来につながる(次世代とのつながりやレガシーの創出)
  - 幅広い交流を通じ、未来に残すべき伝統、知恵等を次の世代に継承する機会を生み出すことができる
  - 幅広い参画・交流や継続的な実施等を通じて、未来(レガシー)につながる機会を創出

## 東京 2020 文化オリンピックアード

目標

文化の祭典として、あらゆる人々が参加できるプログラムを全都道府県において実施し、地域を活性化する  
文化オリンピックアードを通じて、多くの若者に文化芸術への参加を促進し、創造性を育成する

リオデジャネイロ大会後に開始

東京大会開会前からは、集大成として、「東京2020フェスティバル(仮称)」を開催

### 東京2020公認文化オリンピックアード

- 申請対象団体: 政府(各省庁)、開催都市(東京都、区市町村)、スポンサー企業  
JOC / JPC、会場関連自治体(道県・市町)、大会放送権者

### 東京2020応援文化オリンピックアード

- 申請対象団体: 地方自治体、公益法人、その他非営利団体

## 2. beyond2020プログラム(内閣官房)

- 2020年以降を見据え、日本の強みである地域性豊かで多様性に富んだ文化を活かし、成熟社会にふさわしい次世代に誇れるレガシーの創出に資する文化プログラムを「beyond2020プログラム」として認証し、ロゴマークを付与することで、オールジャパンで統一感を持って日本全国へ展開していく仕組みです。

## 東京2020大会に向けた文化プログラムの枠組

	東京オリンピック・パラリンピック競技大会 組織委員会	文化を通じた機運醸成策 に関する関係府省庁等 連絡・連携会議
プログラム	東京2020文化オリンピック	
	東京2020公認 文化オリンピック	東京2020応援 文化オリンピック
概要	<p>「オリンピック憲章」に基づいて行われる公式文化プログラム</p> <p>東京大会の主なステークホルダー等が大会ビジョンの実現に相応しい文化芸術性の高い事業を実施</p>	<p>「オリンピック憲章」に基づいて行われる公式文化プログラム</p> <p>非営利団体等がオリンピック・パラリンピックムーブメントを裾野まで広げる事業を実施</p>
実施主体	組織委員会、国、開催都市（東京都、区市町村）、会場所 在地方公共団体、公式スポンサー、JPC、JPC	会場所在地以外の地方公共団体、独立行政法人を含む非営利団体
ロゴマーク		
認証要件	<p><b>実施の基礎要件</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公益性、参加可能性、非悪質、非宗教・非政治、安全性、非営利性、適切性を満たすこと</li> <li>・ オリンピック・パラリンピック憲章又はオリンピック・パラリンピックの趣旨に照らして適切と認められること</li> <li>・ 東京2020大会スポンサーのマーケティングルールを順守すること</li> </ul> <p><b>大会ビジョンとの合致</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全員が自己ベスト 多様性と調和 未来への継承、の趣旨と合致していること</li> </ul> <p><b>目指すべきレガシーコンセプトの実現</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ コンセプト：日本文化の再認識と継承・発展</li> <li>・ コンセプト：次世代育成と新たな文化芸術の創造</li> <li>・ コンセプト：日本文化の世界への発信と国際交流</li> <li>・ コンセプト：全国展開によるあらゆる人の参加・交流と地域の活性化</li> </ul> <p><b>レガシー実現に向けたアクション</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大会ビジョン及び4つのレガシーの実現に向けて、2020年までの4年間、様々な主体における多様な取組により、文化オリンピックを展開</li> <li>・ 文化の祭典としてあらゆる人々が文化オリンピックに参加し、オールジャパンで盛り上げることで、国内はもとより、世界中の国・地域から訪れる多くの人々に対し、日本の文化の力を発信</li> </ul>	<p>日本文化の魅力を発信する事業・活動</p> <p>多様性・国際性に配慮した、以下のいずれかを含んだ事業・活動</p> <p>障害者にとってのバリアを取り除く取組</p> <p>外国人にとっての言葉の壁を取り除く取組</p>

## 策定組織

### 1. (仮称)台東区文化プログラム策定委員会 名簿

役職	氏名	所属
委員長	垣内 恵美子	政策研究大学院大学文化政策プログラムディレクター 教授 台東区文化政策懇談会委員 台東区教育委員
副委員長	松下 功	東京藝術大学副学長 東京2020大会組織委員会文化・教育委員会委員
委員	土居 利光	東京都恩賜上野動物園前園長 首都大学東京客員教授 日本パンダ保護協会会長
委員	坂 真太郎	能楽師シテ方観世流 重要無形文化財「能楽」(総合認定)保持者 台東区アートアドバイザー たいとう観光大使
委員	渡邊 寧久	演芸評論家 (仮称)したまち文化・芸能事業検討委員
委員	池尾 清美	台東区社会教育委員 台東区スポーツ推進委員
委員	大瀧 洋子	台東区商店街連合会女性部副部長 「したまち演劇祭 in 台東」運営委員
委員	堀越 弥栄子	東京都生活文化局文化総合調整担当部長(～6月30日) 東京都生活文化局魅力発信プロジェクト担当部長(7月1日～)
委員	佐藤 徳久	台東区企画財政部長
委員	河井 卓治	台東区文化産業観光部長
委員	吹澤 孝行	台東区福祉部長
委員	田中 充	台東区教育委員会事務局次長
委員	太田 清明	文化産業観光部参事 (公益財団法人台東区芸術文化財団事務局長)
オブザーバー	堀口 昭仁	文化庁長官官房政策課文化プログラム係長

## 2. (仮称)台東区文化プログラム策定委員会 設置要綱

---

### (目的)

第1条 この要綱は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とした文化芸術活動の機運醸成を踏まえ、2020年に向けた区の文化事業の展開と、その後を見据えた更なる文化振興を図ることを目的とする(仮称)台東区文化プログラムの策定に向け、(仮称)台東区文化プログラム策定委員会(以下「委員会」という。)を設置し、委員会の運営に関し必要な事項を定めることを目的とする。

### (所掌事項)

第2条 委員会は、次に掲げる事項について検討する。

- (1) (仮称)台東区文化プログラムの対象事業に関すること。
- (2) 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会及び国の機関による文化プログラム認証制度の利用に関すること。
- (3) 現状の文化施策の課題及び東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて求められる施策を踏まえて、区が新たに取り組む事業に関すること。
- (4) 前3号に掲げるもののほか、(仮称)台東区文化プログラム策定に関して必要な事項

### (組織)

第3条 委員会の委員は、次に掲げる者のうちから東京都台東区長(以下「区長」という。)が委嘱し、又は任命する。

- (1) 学識経験を有する者
- (2) 文化事業に関する専門知識を有する者
- (3) 別表に掲げる区の職員
- (4) 前3号に掲げる者のほか、区長が必要と認める者

2 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員長は委員のうちから区長が指名し、副委員長は委員長が指名する者をもって充てる。

### (会議)

第4条 委員会は、委員長が招集する。

- 2 委員長は、委員会を代表し、会務を総括する。
- 3 副委員長は、委員長に事故があるときはその職務を代理する。
- 4 委員長は、必要に応じて委員会に委員以外の者の出席を求めて説明を聴くことができる。

### (委員の任期)

第5条 委員の任期は、(仮称)台東区文化プログラムの策定が終了したときまでとする。

### (庶務)

第6条 委員会の庶務は、文化産業観光部文化振興課において処理する。

(委 任)

第7条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関して必要な事項は、区長が別に定める。

付 則

- 1 この要綱は、平成29年4月17日から施行し、(仮称)台東区文化プログラムの策定が終了した日にその効力を失う。
- 2 この要綱の施行の日以後最初に開かれる委員会は、第4条第1項の規定にかかわらず、区長が招集する。

別表(第3条関係)

役 職
企画財政部長
文化産業観光部長
福祉部長
教育委員会事務局次長
文化産業観光部参事(公益財団法人台東区芸術文化財団事務局長)

### 3.(仮称)台東区文化プログラム策定委員会での検討経緯

日程	議題
第1回 平成29年4月25日	・(仮称)台東区文化プログラム策定について ・(仮称)台東区文化プログラム対象事業の選定基準について ・文化関連事業の実施状況について(区・区芸術文化財団) ・策定スケジュールについて
第2回 平成29年5月22日	・(仮称)台東区文化プログラムの策定の考え方と構成について ・(仮称)台東区文化プログラムの展開案について ・(仮称)台東区文化プログラム骨子案について
第3回 平成29年7月12日	・(仮称)台東区文化プログラムの正式名称について ・(仮称)台東区文化プログラム5つの視点について ・(仮称)台東区文化プログラム素案について
第4回 平成29年8月22日	・たいとう文化発信プログラム最終案について ・ロゴマーク(案)について ・今後の展開について

たいとう文化発信プログラム

2020年、そして輝く未来へ

平成29年10月発行

(平成29年度登録第44号)

台東区文化産業観光部文化振興課

〒110 - 8615 台東区東上野4 - 5 - 6

電話 03(5246)1146

FAX 03(5246)1515